

令和4年度 檜山地域づくり連携会議議事録

日 時：令和4年(2022年)8月3日(水) 13:30～15:30

場 所：檜山振興局 4階講堂

出席者：別紙出席者名簿のとおり

議 題：(1)「地域づくり推進ビジョン」に係る地域重点プロジェクトの推進状況について
(2)「道南連携地域政策展開方針」に係るプロジェクトの推進状況について
(3)その他(情報提供)

意見交換：「子どもたちの未来に向けた檜山地域のあり方について」

【檜山振興局 高橋地域創生部長】

時間になりましたので、会議を開始させていただきます。

ただいまから令和4年度檜山地域づくり連携会議を開催いたします。会議進行は檜山振興局が担当いたします。本日はWeb会議でございますので、発言時以外はマイクのミュート設定をお願いいたします。

本会議は北海道総合開発計画を推進する国と北海道総合計画を推進する道が主催し、国、道、町、民間団体などの地域の多様な主体が、魅力と活力ある地域の将来像を共有し、適切な役割分担のもと、連携協働の地域づくりを進めることを目的に毎年開催しております。なお、本日の議事内容につきましては、北海道文書管理規程に基づき、議事録を作成し、後日、振興局のホームページに掲載いたしますのであらかじめご承知おきお願い申し上げます。

それでは、本会議の主催者である北海道開発局函館開発建設部と、北海道檜山振興局よりそれぞれご挨拶申し上げます。

まず、最初に函館開発建設部の岡下部長様よろしくようお願い申し上げます。

【函館開発建設部 岡下部長】

函館開建の岡下でございます。いつも大変お世話になっております。本日はよろしくようお願いいたします。今日はお忙しい中、檜山地域づくり連携会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、日頃より開発事業の推進にご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、昨年6月、国道229号で発生しました乙部町館浦の岩盤崩落による通行止めでは、地域の皆様に大きな影響が出ており、大変なご不便をおかけしているところでございます。皆様のご協力をいただきながら、新規に乙部防災事業に着手し、別線ルート整備に向けた調査設計に鋭意取り組んでいるところでございますので、ご理解をよろしくようお願いいたします。

また2月には、発達した低気圧による降雪のため、広い範囲で国道の通行止めを実施しました。また6月下旬にも例年を超える大雨となり、内水氾濫や通行止めなど、皆様にも影響があったところであり、自然災害の激甚化・頻発化がこの道南でも伺えるというふう考えております。

本日の会議では、「子どもたちの未来に向けた檜山地域のあり方について」をテーマに意見交換を予定しております。現在、国土交通本省では新たな北海道総合開発計画の策定に向けた検討が急ピッチで進められているところです。2050年のあるべき姿を見据え、

ここに至る道のりについて意見が交わされているところです。今後皆様からご意見をお伺いすることがあると思いますし、また、本日の議論も新計画の策定に向けた貴重な意見を伺える機会として考えているところでございます。皆様からの忌憚のないご意見、活発なご議論をいただければ幸いです。

最後になりますが、本来であれば対面での会議を開催したかったところですが、新型コロナウイルス感染拡大により、昨年同様のウェブ会議形式としましたことにご理解をお願いいたします。それでは本日はどうぞよろしくをお願いいたします。

【檜山振興局 高橋地域創生部長】

続きまして、檜山振興局長の槇よりご挨拶申し上げます。

【檜山振興局 槇局長】

檜山振興局長の槇でございます。本日はお忙しい中、リモート会議ということでご参集いただきまして誠にありがとうございます。

先ほど岡下部長の方からもお話がございまして、当初、事務局では対面での会議を予定しておりましたが、現下のコロナの急拡大、また、デジタル化の流れの中でそれに即した対応ということもございまして、昨年に引き続き、リモートでの会議という形で開催させていただくことといたしました。

新型コロナウイルスの流行から2年半が経過しまして、3年目の夏を迎えているところでございます。この間、様々な行動制限や営業自粛の要請、また、医療の逼迫などで地域も大変大きなダメージを受けてきたところであります。しかしながら、今もまだ拡大を続けているコロナウイルスですけれども、現下の変異株の性質等もございまして、重症化リスクがかなり低下している状況でございます。

こうした中、これまで取ってきた厳しい政策、そういったものからいかにコロナとうまく付き合いながら、疲弊した経済の回復、また、住民の生活の向上、そういったものに向けて新しい政策を打っていく、そういった節目の局面に今差し掛かっているという状況であると認識しております。

こういった中で、このような地域の首長様方、また各団体の皆様方と忌憚のないご意見を交わしながら、現下のコロナ禍における政策とともに中長期的な視野に立った、本日のテーマにもございますが、子どもたちの未来にも繋がるような地域づくり、そうした話題について、ご意見・ご議論をいただくこういった機会を持てることは、本当に意義あることだと考えております。

本日、忌憚のない意見をいただきまして、これを今後の檜山地域の振興にも役立てて参りたいと思っておりますし、国の政策にも是非とも反映をしていただきたいと思います。

どうかよろしくをお願いいたします。

【檜山振興局 高橋地域創生部長】

出席者紹介（出席者を順に呼び上げる）

【檜山振興局 槇局長】

それでは早速、議題に沿って、進めさせていただきます。まず議題の1番、地域づくり推進ビジョンに係る地域重点プロジェクトの推進状況につきまして、函館開発建設部からご説明をいただきます。よろしく申し上げます。

【函館開発建設部 村田地域振興対策室長】

それでは事務局から、道南連携地域「地域づくり推進ビジョン」に係るプロジェクトの進捗状況について、説明させていただきます。資料1-1をご覧ください。1、2ページ目ですが、「地域づくり推進ビジョン」は、国が策定する北海道総合開発計画と北海道庁が策定する北海道総合計画の地域展開を図るため、この道南に限らず全道各地域において策定しているものでございます。地域の皆様と連携協働の取組を推進するため、今後10年の地域の方向性を示すものとして、「地域の現状・課題」、「地域のめざす姿」、「地域重点プロジェクト」という柱立てで構成されております。昨年度は、北海道の総合計画の策定、国の北海道総合開発計画の中間点検に伴う見直し実施年ということで、昨年この会議において皆様にご審議いただき、地域重点プロジェクトを見直したものでスタートしているところでございます。檜山振興局と函館開発建設部はこのプロジェクトの推進状況を、毎年度開催させていただいておりますこの会議の場において、構成員の皆様にご確認いただいております。また、このプロジェクトを各構成員の皆様には、伴走する形で施策に取り組んでいただくことにより、魅力と活力ある地域社会の実現を目指すというものでございます。3ページ目から5ページ目ですが、プロジェクトの概要となっております。昨年整理させていただきました「地域の課題」、「地域のめざす姿」に基づきまして、檜山振興局と函館開発建設部は5ページにある「地域重点プロジェクト」として、15のプロジェクトを設定し、それぞれにぶら下がる施策事業を展開しております。

それでは資料1-2にまいります。こちらはビジョンの本紙となっております。資料の20ページ以降になりますが、昨年度から現時点にわたって進展のあった部分について赤字により記載が加えられております。時間の都合で詳細な説明は割愛させていただきますので、後程ご確認くださいと存じます。

続きまして、資料1-3に進めさせていただきます。函館開発建設部が進めております地域プロジェクトの推進状況でございます。当部は「人が輝く地域社会の形成プロジェクト」、「世界に目を向けた産業の振興プロジェクト」、「強靱で持続可能な国土の形成プロジェクト」として3つのプロジェクトを推進しております。

まず「人が輝く地域社会の形成プロジェクト」では、分散型の国土づくりを先導する北海道型地域構造の保持・形成に向けた定住・交流環境の維持増進といたしまして、高規格道路を始めとする基幹的なネットワークの整備の推進、また、港湾物流機能強化の推進に取り組んでおります。また北海道の価値創造力の強化に向けた多様な人材の確保・対流の促進といたしまして、ダムを活かした地域連携による自立的・持続的な活性化の推進、「道の駅」の休憩・情報発信・地域連携等の機能・魅力の向上、「シーニックバイウェイ」の推進、「わが村は美しくー北海道」運動の推進、水産資源を活用した観光振興等、地域マリンビジョンの推進を図っております。また新たな観光需要を取り込む世界水準の観光地の形成といたしまして、観光地へのアクセスや観光地間の周遊の利便性向上のためのゲートウェイ機能、ネットワーク機能の強化や整備に取り組んでおります。また、北海道みたとオアシス等によるみなどを活用した交流拠点の形成にも取り組んでまいります。

2つ目のプロジェクトは「世界に目を向けた産業の振興プロジェクト」でございます。農林水産業・食関連産業の振興とスマート化の推進のため、地域の風土に適し、安全で安心な食料供給の確保と生産力を安定、強化するための農業生産基盤整備を推進しております。また、安全・安心で良質な水産物を安定供給するための衛生管理型漁港整備の推進に取り組んでおります。また、ポストコロナに対応する地域の強みを活かした産業の育成では、海藻活用調査検討プロジェクトへの活動支援といたしまして、奥尻町のホソメ昆布を対象に取り組んでおります。

続きまして、「強靱で持続可能な国土の形成プロジェクト」では、激甚化等する災害の懸念や積雪寒冷地特有の課題も踏まえた強靱な国土づくりへの貢献と安全・安心な社会基

盤の形成の取組といたしまして、流域治水の推進、駒ヶ岳噴火時の迂回路・避難路の確保、地域や道路利用者との連携を強化する地域防災パートナーシップの構築等のソフト施策について取り組んでまいります。また、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた建設施工におけるCO2削減の推進や、インフラ分野におけるデータとデジタル技術活用の推進に取り組んでまいります。

8ページ以降では主な施策をわかりやすく説明したものとなっております。10ページですが、水害から市街地や農地を保全するための根幹的な治水対策の推進といたしまして、後志利別川では河道掘削などのハード対策、流域対策としてタイムラインの運用防災教育を進めてまいります。14ページですが、乙部防災事業の推進といたしまして、国道229号において令和3年度に発生いたしました岩盤崩壊により、通行止めが継続し地域の生活に大きな影響が生じております。この状況を早期に解消すべく、岩盤崩壊危険箇所を回避した道路の復旧事業を進めております。18ページになりますが、国営緊急農地再編整備事業といたしまして、今金町とせたな町におきましてほ場区画の拡大による生産性の向上を図るため、農地の区画整理及び土地利用の再編事業を進めてまいります。

引き続き、地域づくり推進ビジョンの下、プロジェクトに沿ったハード、ソフトの各施策を進めプロジェクトの充実を図ってまいりたいと考えております。以上で議題1「地域づくり推進ビジョン」に係るプロジェクトの進捗状況について、事務局からの説明を終わります。

あわせて資料3-1について、参考ということで簡単にご説明させていただきます。

現在、第8期北海道総合開発計画に基づき、国土交通省では北海道の食と観光を支える生産空間の維持発展に向けて、北海道内3エリアにモデル地域を設定してそれぞれ取り組んでおります。本日詳しい説明は割愛させていただきますが、道北の名寄地域では、道の駅を活用した物流効率化の取組、交流・定住人口増加を目指した広域の観光連携の取組を実施しております。また、十勝地域では、畑作農家の労働力不足解消、働き方改革としてICTを活用したアルバイトアプリによる働き手のマッチングの取組、また、交通の取組として、幹線バスの運行効率化の取組を実施しております。資料に具体的な取組内容が記載されております。取組内容にご興味、ご関心がございましたら、函館開発建設部までお問い合わせください。以上で説明を終了いたします。

【檜山振興局 榎局長】

ただいまの説明に関しまして、ご質問等あれば、お願いいたします。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

後程の意見交換の時間もありますので、どうかよろしくをお願いいたします。

それでは続きまして、議題の(2)でございます。道南連携地域政策展開方針に係るプロジェクトの推進状況につきまして、檜山振興局からご説明いたします。

【檜山振興局 山本地域政策課長】

檜山振興局地域政策課の山本でございます。私からは道南連携地域政策展開方針に係る各プロジェクトの推進状況について、お手元に配付いたしました資料2-1、2-2及び資料2-3によりご説明をさせていただきます。

道南連携地域政策展開方針については、地域の特性や特色に応じて、地域に根差した政策を展開するため、令和3年12月に、市町村や地域の方々の参画を得まして、新たに策定をいたしました。展開方針の計画期間は令和3年度から概ね4年間としておりまして、当該方針の中で令和4年度をめぐりに目指す地域の姿を示しながら、道南地域の地域づくりの推進を図ることとしております。

展開方針では、地域の目指す姿の実現に向けて、地域の強みや可能性などを生かし、地域の多様な主体と連携・協力しながら、様々なプロジェクトに取り組んでまいります。プロジェクトの目的などの詳細については、後程資料の2-1をご覧ください。また、資料2-3について、こちらも渡島・檜山両地域の、特に令和3年度の取組において、詳細に記載しておりますので、今回の会議においては、資料2-2を使いまして、主に令和4年度の取組についてお話をさせていただきますので、恐れ入りますが、こちらの資料2-3についても後程ご覧ください。それでは、資料2-2をご覧ください。それでは資料2-2の表紙をご覧ください。

道南連携地域のプロジェクトは計6つのプロジェクトが展開されておりますが、そのうちの縄文遺跡群を活用した魅力発信と誘客促進プロジェクトは、渡島総合振興局が中心となって取り組むプロジェクトでありますので、今回の説明は割愛させていただきます。表紙をおめくりいただきまして、1ページ目をご覧ください。各プロジェクトごとに上から「プロジェクト名」、「目的」、「令和3年度の取組」、「令和4年度からの取組」を記載しております。先ほど申し上げましたとおり、令和3年度の取組内容については、資料2-3に詳細を記載しておりますので、後程ご確認ください。

それではまず1ページ目、北海道新幹線の札幌開業を見据えた交流定住促進プロジェクトですが、こちらは長引く新型コロナウイルス感染症の流行により、観光入込客数が大幅に減少するなど、地域経済や社会生活に大きな影響が及んでいる一方で、ポストコロナを見据えた地域への観光投資やワーケーションといった新たな働き方にも注目が集まっております。こうした動向を的確にとらえ、今後の北海道新幹線開業も見据え、観光誘致・ワーケーション等による長期滞在、移住定住の促進など、交流人口や関係人口の創出拡大を推進していくプロジェクトでございます。資料中段の令和4年度の取組、R4と書いてあるところをご覧ください。

まず、北海道新幹線の開業を見据えた交流の拡大ですが、一つ目にぐるっと檜山キャンペーンの実施です。7月29日から11月末まで実施することとしておりまして、その中における感染防止対策と経済活動の回復を両立させながら、檜山地域の観光・地域間交流を促進し、地域経済の活性化を図ります。また昨年度に引き続き、檜山フェアを開催し、檜山地域のPRを図る予定です。

次に、個性豊かな観光地づくりと受入体制の充実ですが、来年、2023年にアドベンチャートラベルワールドサミットの開催地として北海道が選ばれていることから、本イベントを契機に管内への誘客を促進するため、観光振興機構とも連携の上、コンテンツの磨き上げ支援に取り組んでまいります。また、檜山管内の古民家の利活用を推進する民泊普及啓発セミナーを本庁とも連携し、秋頃に開催する予定です。昨年にも引き続き、「ひやまの観光をみんなで考える会」を開催し、檜山管内の着地型観光の推進に向けて情報共有や協議を図ってまいります。

次に、移住・定住及びワーケーション等の推進ですが、今年の秋冬ごろに移住セミナーを開催し各町のPRを通じて、移住・定住の促進を行います。また令和3年度に引き続き、檜山ワーケーション推進協議会を通じまして、各種取組などの情報共有や檜山地域の連携強化を図ります。ひやまワーケーションモニターツアーについては、檜山管内におけるワーケーション機運の醸成、プランのブラッシュアップを目的に道内外企業等を招聘しまして、利用者から見た課題の把握や、地域資源の再発掘を行います。

2ページ目をご覧ください。道南の優位性を活かしたカーボンニュートラルへの挑戦プロジェクトについてです。温室効果ガスの排出削減は、世界共通の最重要課題の一つとなっており、日本、また本道においても2050年にカーボンニュートラルを達成するとの目

標が掲げられております。檜山地域は風力や地熱などの再生可能エネルギーの導入ポテンシャルが高く、CO₂の吸収源となる森林が土地面積の8割を占めるなど、大きな強みを有しており、これらの地域特性を最大限に発揮し、脱炭素化を目指すプロジェクトです。

令和4年度の取組ですが、まず、温室効果ガス排出用の削減に向けた取組の促進でありまして、檜山地域一体となって、ゼロカーボンに取り組んでいくための共通目標を掲げるべく、ひやまゼロカーボンネットワークを通じた最新の情報共有や意見交換を実施し、ロードマップ策定を検討してまいります。また、檜山振興局がEV公用車を導入し、地域住民等の利用可能なカーシェアリングを実施することにより、地域全体で移動の脱炭素化を目指してまいります。

次に、再生可能エネルギーの利活用推進ですが、洋上風力発電を含め、関連事業等に参入意欲のある利用者への理解を深めるべく啓発等のアプローチを行ってまいります。また檜山沖における海底地盤調査が行われるなど、洋上風力発電施設の立地先の候補の一つとして檜山地域が注目されております。今後も引き続き、洋上風力発電の普及啓発に取り組んでまいります。

次に森林の適正管理と吸収減対策ですが、森林環境譲与税を活用し、間伐、下刈り等を行い、森林の整備保全を行ってまいります。また、植樹・育樹活動への参加や七夕・クリスマスイベント等を活用しまして、木育の推進を行ってまいります。

次にページをおめぐりいただきまして3ページ目をご覧ください。地域に根差した農林水産業の持続的発展プロジェクトですが、農林水産業は地域の基幹産業として将来にわたり成長していくため、製品のブランド化や適正な資源管理などによる付加価値の向上、販路の拡大など産業への転換を進めるほか、デジタル技術を活用した生産体制の高度化や省力化を進めるとともに、移住・定住施策とも連動しながら、新規就業者の確保を図るなど、担い手確保へ向けて取り組むプロジェクトとなっております。

令和4年度の取組ですが、まず生産力向上です。スマート技術の活用、具体的には、肥料等の生産コストの発生削減を図るべく、肥料のばらつき具合の見える化を行う土壌センシングの実証試験や、水中ドローンを活用した海中調査などを行ってまいります。また、せたな・奥尻などを初めとしたサーモン養殖やニシンの種苗放流など、漁業資源の確保を目的とした栽培漁業の推進にも取り組んでまいります。

付加価値向上と販路拡大ですが、道南スギやヒバなどの地域材の推進、檜山管内の一次産業等の推進PRのために檜山フェアを活用しまして、より一層の知名度アップと、売上の向上に努めてまいります。

次に、新規就業に繋がる担い手確保ですが、移住・定住イベントにおける地域協力隊の活用や移住支援金制度、移住交流イベントを通じ、担い手確保に向けて取り組んでまいります。また、障害者の農業分野での活躍を通じ、社会参画を目指す農福連携を推進すべく、農作業体験会や農業者向けの見学会なども行ってまいります。

ページをおめぐりいただき4ページ目をご覧ください。くらしの安全安心を支えるまちづくりプロジェクトについてですが、医療や交通などの生活基盤を持続的に確保するとともに、自然災害への対応を強化すべく、地域住民を初め、各町、関係機関、事業者と連携し、ハード・ソフト両面から地域防災の充実強化を図っていくプロジェクトでございます。

令和4年度の取組についてですが、まず公共交通の維持です。各町・交通事業者を交え、檜山地域公共交通計画の策定に向けて、協議会や勉強会を開催し、計画策定の考え方や基本的な方針の認識を合わせてまいります。また、奥尻島の島民の足である航路、空路維持のため、町、事業者、振興局等も交えた協議会などを開催し、離島の生活交通路線の維持・確保に取り組む。さらに先ほども触れました、ぐるっと檜山キャンペーンや公共交

通利用促進事業であるぐるっと北海道、また、HACを利用した奥尻島での婚活ツアーの開催などを通じて檜山地域での公共交通の利用促進を図ってまいります。

次に、安心して質の高い医療福祉サービスの強化ですが、地域医療構想調整会議を通じて南檜山圏域全体での医療提供体制の現状把握や課題整理、また、業務提携の仕組みづくりに向けて、調整を図ってまいります。

また、札幌医科大学と連携し、江差病院に医学研究のフィールドを設置、教員、学生の派遣受入、研修医や医学生の研修体制を整備するとともに、診療参加型臨床実習や地域医療研修・外来研修を通じて、医療人材の育成体制の構築、南檜山二次医療圏における地域医療の確保を推進してまいります。

次に防災体制の向上と安全・安心なまちづくりですが、各町事業者の皆様との津波、大雨等の防災訓練や大雨等を想定した訓練を通じまして、有事の際の流れを確認するとともに、災害に伝えた盤石な防災体制を構築してまいります。また、地域の防災教育の推進といたしまして、小学校向けの防災学校の実施や、避難所運営ゲームでありますD o ハグの研修を行うなど、地域住民の皆様と防災への意識を高める取組を推進してまいります。

ページをおめくりいただいて5ページ目をご覧ください。地域の強みを生かした産業活性化雇用創出プロジェクトですが、檜山地域におけるバラエティー豊かな地域産品や温暖な気候を生かしたワイナリーの誘致など、地域の特性を生かし、産業活性化及びそれらの強みを生かしていく産業の振興や企業誘致を推進し、地元中小企業の事業活動の活性化と雇用の創出を図るプロジェクトです。

令和4年度についてですが、地域産業の振興や企業誘致の推進、そして、ひやまフェアや札幌・大阪の商談会を活用し、魅力的な檜山地域の一次産品・加工品のPRを行ってまいります。また昨年引き続き、起業や地域づくりに取り組む人材の育成を図るためのセミナーも開催します。

次に、雇用の創出及び若年層の定着ですが、若年層や早期退職者層に向けた「じもと×しごとフェア」を開催し、雇用の創出・定着を図ります。また企業の働き方を改革すべく、各企業の個別課題を解決するためのアドバイザーの派遣を実施するなど、働き方改革の推進に向けたセミナーも開催します。

以上手短であります。私からの説明とさせていただきます。ありがとうございました。

【北海道檜山振興局 榎局長】

ただいまの説明に関しましてご質問等ございませんでしょうか。

私から一言、補足をさせていただきますと、ただいま説明いたしましたプロジェクトの推進状況、今後の取組でございますが、紙面の都合上、主に振興局が主体となった取組を、掲載させていただいておりますけれども、このプロジェクトは、冒頭申し上げましたとおり、各町、そして団体、事業者の皆様が一体となって行うものでございます。

この後、各町、団体の皆さんからも、それぞれの取組状況について、ご発言いただくとお思いますけれども、そういった取組への関与を振興局として積極的にしながら、このプロジェクトの進捗を図っていきたくお思いますので、よろしくお願いたします。

それでは、議題の3番、その他の情報提供とありますけれども、本日、オブザーバーとして、国立研究開発法人寒地土木研究所の日向様から情報提供いただくことになっております。どうぞよろしくお願いたします。

【国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所 日向寒地技術推進室総括主任研究員】

寒地土木研究所寒地技術推進室の日向と申します。資料3-3で当研究所の取組について

て紹介させていただきます。

まず1ページ目でございます。上の囲みの部分になりますけれども、寒地土木研究所とは、ということで、積雪寒冷地での土木技術に関する研究開発・技術指導、成果の普及を図り、土木技術の向上、社会インフラの良質化、北海道開発の推進を目的に設立された寒地土木技術の知見研究機関です。その下の囲みの部分にありますけれども、寒地土木研究所の地方公共団体様への技術支援について、平成22年6月に、土木技術のホームドクター宣言を行いまして、道内の地方公共団体様への技術協力・技術支援を積極的に行う方針を明確にいたしました。技術相談を含め3点ほど支援活動を行っております。1つ目は、土木技術に関する諸問題の相談などの支援です。2つ目は、1ページ目の一番下の囲みになりますけれども、土木技術者の技術向上などの支援、そして2ページ目に、上の囲みになりますけれども、災害時における技術指導などの支援を行っております。

2ページ目の下の囲みの部分には、技術相談窓口のメールアドレスを記載しておりますので、お困りなことがあれば、お気軽にご相談いただければと思います。

3ページ目には今年度当研究所として普及に取り組む技術を示しています。本日当研究所のホームページに掲載する予定となっておりますので、関心のある技術についてご覧いただければと思います。

4ページ目ですけれども、こちら檜山地域との関わりに関しましては、当研究で開発いたしましたやりいか産卵礁機能付消波ブロックというのを、北海道開発局様の事業を通じて、平成14年から18年ごろに設置させていただきました、という紹介になっております。

5ページ目ですけれども、こちらの方にはまちづくりに関する資料・マニュアル類を紹介させていただいております。

6ページにつきまして、当研究所では冬季限定でインターネットサイト吹雪の視界情報により視界予測などの情報を提供しておりますので、ご活用いただければと思います。

7ページのところには、一酸化炭素中毒の危険性について啓発する資料につきまして、当研究所のホームページからダウンロードすることができますので、ご活用いただければと存じます。

私からの紹介は以上です。お時間いただきましてありがとうございました。

【檜山振興局 榎局長】

それでは早速ですが、これまでの報告を踏まえまして、意見交換に移らせていただきたいと思っております。次第にもございますとおり、本日のテーマは「子どもたちの未来に向けた、檜山地域のあり方」についてということでございます。

ただいま、説明のあった国のプロジェクトまたは道のプロジェクト。それぞれ、中期的な5年程度のビジョン、目標を掲げた上での取組でございますが、それを議題に、もう少し長期的な視野に立った今後の檜山地域のあり方について、皆様でご議論をいただけたらと思っております。現在の各町、団体の皆様の取組の状況、また、それを踏まえた今後のまちづくり、産業振興、そういったことについて幅広くご意見を伺えればと思っております。

大変申し訳ないですが、会議時間の都合もございますので、お1人5分程度でご発言をいただければと思います。

最初に、いつもこのような会議では先陣を切っていただいて大変申し訳ないですが、江差町の照井町長からご発言をお願いできればと思います。よろしく願いいたします。

【江差町 照井町長】

江差町の照井でございます。5分程度ということで、意見交換の題が非常に大きなお話だということで、江差町の教育行政に関することなどを中心に少しお話をさせていただければと思っております。江差町教育大綱を2021年に改定して、子どもたちを誰一人取り残さない教育行政を推進するというので、各種施策に取り組んでいるところです。

特に子育て環境の充実ということが非常に大事だと思っております。江差町で非常に少子化が進んでいる中で、産み育てやすい環境を作ることが大事だと思っております。その意味でも、8年前に、高校生までの医療費を無料にしながら、医療にかかりやすい体制をつくること。また、今年8月に上ノ国町さんと一緒に給食センターを立て替えて完成し、この8月2学期から新たな給食の提供が始まります。これに合わせて江差町は給食費も無償化をして、子育てのしやすい状況を作っていきたいと思っております。

ただその一方で、子どもたちの声をいかにまちづくりに反映させるかということが私は大事だと思っております。今年2月に小学校に遊具を設置することにしたのですが、その際には、小学校の児童会に声掛けをして、児童会が作って欲しいと思う遊具を提案していただいて、それを議会にかけて、今、完成をしているという状況でございます。

子どもたちが町に対する関心を持つことが将来にとって、その子どもたちが成長した時に町に対して、あるいは社会に対して大きく貢献していただけるのではないかと思います。

もう1つ、今江差町ではかもめ島を中心にマリumpingという事業をやっています。これはキャンプやマリンスポーツをすることによって地域の活性化につなげていこうということで、観光客の誘致などにも力を入れています。

その中で、新たな体験プログラムとして今構築しようとしているものの中に、江差高校さんの意見を取り入れたプログラムを今策定しています。江差高校さんでは南檜山学という授業をもって地域のことを学んでいるというような授業をやっていますが、そこに、我々江差町が日本財団から助成いただいてやっているマリumpingのプランの中で、体験プログラムを子どもたち、高校生の意見を反映したプログラムを今策定しようということで、学校側と生徒さんたちと意見を交換しながら今進めている状況です。

本当に子どもたちが少なくなっているのですが、いかに子どもたちが、この地域で育つことが子どもたちにとってプラスになるのか、また、この地域、檜山は学力もまた運動能力も全道の中でも高い水準にあると思っておりますので、そういう子どもたちの個性を伸ばせるような環境を作ってあげていきたいなと思っております。簡単ではありませんけれども、以上、江差町の報告とさせていただきます。よろしく申し上げます。

【檜山振興局 榎局長】

ありがとうございます。照井町長から、少子化、子育て環境の整備のお話いただきました。言わずもがなですが、当地域は少子高齢化が全道で最も進んでいる地域であり、人口減少しかりでございます。そういった中で、今後産業の振興あるいは地域の発展を実現させていくためにはまず子育て環境、少子化対策というのがすべての政策のベースになるものと考えております。そういった意味では、振興局としても各町の皆様と連携しながら、子育て環境の整備に力を入れてまいりたいと思っております。どうもありがとうございました。続きまして、上ノ国町、疋田副町長、よろしく申し上げます。

【上ノ国町 疋田副町長】

上ノ国町の疋田です。今日は町長が公務出張で不在ですので、申し訳ありませんが、私から一言発言させていただきたいと思っております。今回のテーマは、子どもたちの未来に向けた檜山地域のあり方についてということで、ちょっと、町長のほうとは打ち合わせをして

いないですから、私の私的なご意見だというふうに考えていただければありがたいと思います。

今回のテーマについて、私が思うには、まず子どもたちには教育環境の整備が最も必要ではないかと思っております。優れた教育を受けるためには、どうしても受験戦争を勝ち抜いていかなければならないと思っております。ちなみに調べたところ、文部科学省の調査においては、小学生の4人に1人が、また中学生の5割以上が現在学習塾に通っているような結果が出ております。ちなみに中学3年生においては7割を超えているというふうに聞いております。

このような状況において、学校での学習だけではなかなか勝ち抜くことが難しいものと思われませんが、一方で、現代社会においては、インターネット網が普及し、全世界の情報がどこからでも入るような状況であり、インターネットで学習塾を行っているところもあります。このようなツールを使うことによって都会だろうと、地方だろうと、その環境によっては勝ち抜くことができるものと思っております。

またコロナ禍において、職場環境では、リモートワークが重要視されてきております。NTTグループにおいては居住制限を撤廃し、日本全国どこからでもリモートワークができる制度を導入しました。なお、入社時には交通費を支給するということです。またヤフーやラインでも、勤務地制限の撤廃を発表しております。これがもっと当たり前になると、地方に人を集める手段になるものではないかと思っております。

子どもたちの教育を受ける環境をもっと支援し、優れた教育を受けるため、都会に出たとしても、いずれはこの地域に戻ってきて、リモートワークで仕事をこなす社会が訪れることができるものと期待しております。

しかしながら1つ心配しているところもあります。地方における高速ブロードバンド整備は、民間事業者が収益を見込めないことから、一部を除いて実施されておられません。このため、上ノ国町では、平成21年に国が地方自治体に地域情報化を推進するため、国庫補助金のほか臨時交付金の制度を設けたことから、町内全域に光ケーブルを敷設しております。総事業費で3億3000万円に対し、国から3億1500万円の交付があります。残りについては過疎債を充当しております。光ケーブルの耐用年数は15年から20年ですが、本町では早い段階で整備したことから、すでに12年が経過し、更新も考える時期がそろそろ到来することになります。老朽化した光ケーブルの更新は多分国の補助対象ではないでしょうから、すべて一般財源で更新することは、財政的に大変厳しい状況です。高速ブロードバンドは電気などと同様に、生活になくってはならないインフラ整備となっていることから、民間事業者が国の支援を受けて整備する環境を作っていただきたいものと思っております。

以上私からの発言を終わります。

【檜山振興局 榎局長】

どうもありがとうございます。上ノ国町から特に小中学校の教育の話題について、ご発言をいただきました。上ノ国町はもとよりですけれども、当管内は児童生徒数の現象がかなり進んでおまして、小中学校の運営に各町大変なご苦勞をされていると思います。道立の高校についても同様に、非常に生徒数が少なくなった中で運営に苦慮しているところでございます。

そうした中で先ほど、副町長からご発言ありましたとおり、「デジタル化」を進めるということが、今後のこの地域の教育にとっても一つの鍵になると思っております。そういった視点も含めて、今後も地域一体となって取り組んでまいりたいと考えております。どうもありがとうございます。

続いて、厚沢部町、渋田町長よろしくお願ひいたします。

【厚沢部町 渋田町長】

今回のテーマは大変大きなテーマでありますから、その中でも厚沢部町で既に取り組んでいるものを、一つ皆様方に紹介をしながら、これからの檜山の子育てを考えていきたいと思うところであります。

まず厚沢部町、我々の総合計画の中で取り上げている子育て支援の内容ですが、この支援をどう充実していくかという大きな狙いを持って、今進めているところです。大ざっぱに言いますと、総合的な子育て支援対策の推進あるいは育児・保育サービスの充実、公営塾の充実だとか、いろいろもう既に各町でやっておられると思いますけれども、今、我が町ではそういうものに基点を置きながら、具体的に申し上げますと、子育て支援事業という保育料の助成が平成16年度から実は定額補助しております。令和2年からは全額無償という扱いで、今現在来ております。なお、3歳児未満の子どもについては国のそういう制度がないわけですから、これらについては全額、一般会計の中で支援しながら、そして副食と申しましょうか、そういう子どもたちの副食に対しても無償化をしているという状況であります。

それから子育て支援の2つ目のカードは学校給食費の助成であります。学校給食費を令和2年から全額無償にしておりますし、平成16年から子どもたちの学校給食費には2分の1の助成をしております。それと同時に、子育て3点セットと申しまして、もう一つは、乳幼児、児童生徒の医療費を18歳まで全額補助、こういうことも、子育て3点セットを踏まえて厚沢部町では平成16年から進めてきた経緯があります。

それから、認定子ども園はぜるといふ子ども園を平成31年に作ったわけではありますが、定員も満足にきておりますし、子ども発達支援センター、子育て支援センター等も併設しながら、厚沢部町独自のそういう支援センターを作りました。中学校・高校のラインを見ますと公営塾という運営、平成30年に塾の運営を始めました。通常の講習のほかこの夏季講習・冬期講習等も実施しながら、中学校1年生から高校3年生までを対象に、R3年では、中学生51名、高校生12名が受講されていると、こういう公営塾の運営も順調に進めてこられました。

今コロナを契機に、全国的にはテレワーク・ワーケーションを進めるという中で、保育園留学というものを、厚沢部町では取り組んでおります。これは子どもを子ども園に預け、一時預かりをして、親はテレワークをするというふうな中で進めており、子どもを自然の中でのびのび遊ばせたい、こういう都会の親御さんの考え方を受けた事業であります。受入としては平成22年のちょっと暮らし住宅の運用、こういうものの兼ね合いの中で、子ども園とちょっと暮らし住宅を合わせもって、この事業を今進めているというところであります。町内の園児さらには町外からおいでになる園児のコミュニケーションスキルの向上に繋がっていると私は見ており、そんな状況で、子育ての関係は取り組んでいるところであります。時間がないですから、以上で終わります。

【檜山振興局 榎局長】

どうもありがとうございます。渋田町長から公営塾、また、保育園留学という非常に先駆的な政策についての話題提供がございました。

特に保育園留学については、特に本州方面から予約が殺到してなかなか処理をしきれないぐらい盛況だというようなお話も聞いておりました、こうした取組。もちろん受入側の地域の子どもたちの教育にももちろんいい影響を与えますと思いますし、何より、外からお越しになる子どもたちが、将来にわたって厚沢部ファンになっていただくという非常に有

効的な取組ではないかと思っておりますので、引き続き地域として、我々も盛り上げていきたいと思っております。

本日のテーマ、子どもたちの未来に向けた檜山地域ということで、皆様、教育・子育ての話題を中心に発言いただいております。それに加えて、これを非常にテーマとしては、大きなテーマでございます。子どもたちの未来に必要な地域振興あるいは産業そういった部分についても、ご自由にお話をいただければと思っておりますので、引き続きよろしく願いたします。

続きまして、乙部町 寺島町長、ご自宅からのご参加で、大変恐れ入ります。よろしく願いたします。

【乙部町 寺島町長】

私の方から子どもたちの未来に向けた地域のあり方ということで、大変難しいテーマではございますけれども、私といたしましては、地方の存在意義っていうことを改めて皆さんと一緒に考えていきたいとまず率直に感じました。

先ほど地方の役割と申しますと、やはり北海道は大食料基地ということで、都心部の方に食料を安定供給しているのが大きな役割でもございますし、皆さん先ほどからお話しただいておりますような、交流人口を増やすための観光、都心にお暮らしになる方が、地方に癒しを求めていらっしゃる、そういうところを担っていると感じています。

その中で、私が一番危惧しているのは主要産業である一次産業、こちらに従事する方のお子さん、お孫さんは結構いらっしゃるのですが、要するに、親世代の子の従事している方は、まず15歳未満のお子さんをして考えるともうすでに、子どもが20人を切っている。15歳未満の人口が乙部町は200人台ですけれども、約1割しかいない。9割は一次産業から離れた仕事に従事されているお子さんということになろうかと思っております。

そういうことを考えてみますと、やはり今後とも一次産業の振興、新規就労する方をこの檜山の方で集めていかなければいかなかなか将来的に太刀打ちいかなければいかなど。

そういう中で、やはりそういう食料、いろいろな農作物や水産物を都心部に運ぶ際の交通網の整備っていうものは絶対なのかなど。しかも、高速で安全に流通が可能なインフラ整備は今後ともぜひ進めさせていただきたいと感じております。

やはり観光、どうしても鉄路のない檜山地域におきましては、車の移動が主となります。産業、観光面に関しても、交流人口の促進にしても、交通網の整備っていうものは絶対なのかなどと考えております。また子どもにとっての地域のあり方、やはり檜山の自然、気候を含めたそういう地理的なものをもう1回見直しながら、先ほど疋田副町長仰ってましたように、教育の面では非常に不利な地域である反面で照井町長おっしゃったように、学力テスト・体力テスト等でも檜山の子どもたち、全道の平均を超えるような優秀な成績。こちらやはり教育現場の頑張りも効果が出てきているのかなど。

そういう中で、知識を与えるだけにとどまらず、やはり檜山のこの自然の中で、毎日過ごしているということで、体感、心で感じる、そういう体験を通じて、生きていく中で、子どもたちがどんなことが幸せなのかと、そういうことを感じる感性が磨き上げられるような地域になっていかなきゃならないのかなど。そういうところで、教室内の事業だけでなく、外に赴いて、一次産業の方の体験、乙部町でも漁業体験・農業体験、小学生中学生、行っていますけれどもそういうものをもっと密にしながら、子どもを育てる環境、教育環境というものをしっかり築き上げていきたいなと感じております。

大変雑駁で申しわけございませんけれども、私からは以上です。ありがとうございます。

【檜山振興局 檜局長】

どうもありがとうございます。寺島町長から教育に関連し、一次産業、また、地域交通網の整備等、幅広いお話をいただいたところでございます。特に交通については、この地域、今後の交通網の維持確保に非常に難題を抱えているという状況でございます。今、各町でも地域の交通計画というものを作っていたいただいておりますけれども、それに合わせて、檜山・渡島両地域の広域の交通計画の検討・策定にも着手したところでございます。この計画については、もちろん住民の皆さんの生活の移手段、足の確保というのとはもとよりですけれども、それに加えて、寺島町長からの先ほどお話ありましたとおり、交流人口の増加、そういったものも念頭に置きながら、将来を見据えた交通網の整備の計画を作りたいと思っておりますので、引き続きのご協力、どうかよろしく願いいたします。

続きまして、奥尻町 新村町長よろしく願いいたします。

【奥尻町 新村町長】

奥尻町の新村です。よろしく願いします。私からは北海道奥尻高等学校に関連した発言をさせていただきます。意見交換の題材が子どもの未来に向けた檜山地域のあり方についてということで、私どもが平成28年に北海道奥尻高等学校が北海道から奥尻町へ町立移管され、高校の敷地内に中学校の校舎を併設する形で建設し、その頃から、やはり道南の子どもたちの未来ということに向けた考え方をしっかり持っていこうということで、平成29年度から連携型の中高一貫教育を開始するとともに、生徒の全国募集を開始いたしました。

町立移管の経緯としては、北海道教育委員会の公立高等学校配置計画により、再編整備の対象となるまで、生徒数が減少したことが大きな要因です。再編整備の方向性によっては、島内で唯一の高校がなくなる可能性がでてきたことから、高校を存続させるために町立移管することを決断いたしました。住民説明会ではやはり高校がなくなることで、保護者の経済的負担の増加や、島内の若年層が減ることで、そのまちの活気がなくなる恐れもあったため、ぜひ町民からは残して欲しいという肯定的な意見が多く、そのことが町立移管の動機となりました。そしてやはり一番の課題は学校施設の維持費や教職員の人件費などの財政面でしたが、北海道教育委員会からの支援もあり円滑に移管することができました。

移管に合わせて、高校の活性化や交流人口の増加を目的として、生徒の全国募集を開始しております。令和2年度からは毎年定員である町外、学校区外の高校生や子どもたちが20名入学しておりますし、生徒数の増加は町内経済の活性化はもちろんですが、奥尻町出身の生徒にとっては、非常に刺激的であり、生徒数の増加により教育環境も充実することから、町内の中学校からの進学率も上昇しております。

このような背景から、子どもたちの未来にとって教育環境の充実はもちろんですが、生徒数を増加させることが非常に有意義なのではないかと思っております。教育環境の充実につきましては、最近の国のGIGAスクール構想により、生徒1人につき1台の端末の整備をされておりますので、奥尻島のような離島においても、都会の学校となんら遜色のない授業が受けられるとともに、奥尻町では民間企業の協力により、AIドリルを投入し、先進的なICT教育を実施できています。

生徒数増加の話になりますが、僻地の学校では、先ほど渋田町長も仰ったように、やはり、幼稚園から高校まで顔の知れた仲間と一緒にいるので、そこに新たな仲間が増えることで、子どもたちに与える影響はかなり大きなものがあると思っております。奥尻町では現在、離島留学にて、町外から生徒が入学してきておりますが、今後は、移住施策により、

子育て世代の移住者を獲得することにより、中学校以下の子どもを増加させることができないか鋭意検討をしております。町外から入学してきた生徒や移住者が将来関係人口とその町に及ぼす影響、子どもたちがいずれ町で就業するとなれば、その効果はさらに増してくると考えております。

現在、高校を卒業して島に残る生徒が数名出てきているというのは、やはり奥尻の環境を理解してくれて、そこに子どもたちが就業の場を求めている。一次産業、今までの沖合の漁業にチャレンジをしていくという方たちもいますけれども、やはり管理型、そしてしっかりと管理して生産できるそういう養殖事業、こちらにも力を入れて、少しでも担い手を増やそうということで、高校生にもいろいろな働きかけをしておりますので、これからはやはり、その辺に期待をしながら、もっともっと島に残っていただけるような、そういう学校での教育を進めていきたいと考えています。私からは以上です。

【檜山振興局 榎局長】

ありがとうございます。奥尻高校の町立移管、また、移管後の運営、本当にご苦労いただいております。改めて感謝を申し上げます。私も昨年、奥尻高校にお邪魔いたしましたし、生徒さんたちと、いろんな対話をさせていただきました。その時、本州から留学に来ている生徒、また、町の地元の生徒さん、いずれの生徒さんも非常に目が輝いて生き生きしていたのを覚えております。全町で生徒さんたちを受け入れて、また、生徒さんたちも町の住民の皆さんたちとの交流を非常に楽しみにいろんな活動されているということで、おそらく北海道における今後の高校の1つのモデルではないかと私たちも考えているところであります。

今後とも檜山振興局また檜山教育局ともども、学校運営については、ご支援をさせていただきたいと思っておりますので引き続きよろしくお願いいたします。

続いて、今金町 外崎町長よろしくお願いいたします。

【今金町 外崎町長】

意見交換テーマが子どもたちの未来に向けた地域づくりということをいただいたわけがあります。そのことについては、今回のビジョンですべて網羅されているわけでありませけれども、そういう中では、ビジョンも今直面する緊急事案あるいは短期・長期を見据えたものもたくさんあるわけでありませ。そのすべての根底にあるものは、人命尊重あるいは生活を支える地域自治体としての使命、何を行うかということをしかりと総括したものということで、私は認識をしているわけでありませ。

未来に繋がるということでは、重要視したいことの一つに、私はゼロカーボンの実現に向けた環境問題の取組を行い、この良好な環境を未来につなげるということをしていかなければいけないと思っていました。それに基づき、将来に向けて、働く環境を作る、あるいは産業振興、しかりとつなげていくということがとても重要ではないかという認識を持っているわけでありませ。

また、もう1つは、早い段階から、今申し上げたような環境だとか防災だとか災害学習、こういうものについてもしかりと大人と一緒に、子どもの時代から勉強を学んでいくという機会をつくるということがとても重要ではないかなと思っていました。そのことによって、命を守り、生活を守るといふ、そういう観点で、子どもたちが未来を見ていけるようなことになるのではないかなと思っていました。

今、今金町としても、まだ手をつけておりませけれども、重要なのは、事前復興計画といひませか、事前の復旧復興計画、これは基本的には、生活インフラ・社会インフラをベースとするわけでありませけれども、その中に、子どもを守る、子ども編のバージョン

を含めて、私は今、事前復興計画をしっかりと作っていかねばいけないのかなという思いを持っております。そのことが、未来の子どもたちにつなげる、社会を構築するためのベースになるという認識を持っておりますので、またいろんな面からご指導賜りたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

【檜山振興局 檜局長】

外崎町長からも、広範な子どもの未来についてのお話をいただきました。特にゼロカーボンのお話もございました。今金町さんにつきましてはゼロカーボン、SDGs等を推奨する組織を昨年度設けられて、重点的に取組を行われているということで、私どももゼロカーボンまたデジタル化等につきまして、こういった対応で子どもたちの未来、子どもたちが安心して過ごせる環境をこの地域で作っていくということが何より重要だと考えております。

そういった意味では、ゼロカーボン、それから、各町また本日ご参加いただいている団体の皆様方にも、色々なネットワークにも参加していただひいて、情報共有、取組の進展なども、これから共有させていただきたいと思ひますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

続きまして、せたな町 高橋町長。よろしくお願ひいたします。

【せたな町 高橋町長】

子どもたちの未来に向けた檜山地域のあり方についてというテーマであります、一つはどのような町を将来の子どもたちに残していくかということにも繋がると思ひます。そうしたことからせたな町では繋がりや繋ぐをキーワードとして、共生、協働、安心、安全を継承しつつ、地域や世代を超えた繋がり、また産業や地域相互の繋がりなどこれらを未来へつなぐことが重要と考えておひまして、町の将来像を「輪になってつなぐせたなの夢未来」というふうに定めておひます。

子育ての関係につきましては、いち早く18歳までの医療費や学校給食費・保育料の無償化をさせていただひいて、子育ての負担軽減を図っておひまして、日本一子育てしやすい環境づくりというのを目指して今取り組んでいるところでございます。

産業では、基幹産業であります農漁業、これをしっかりと進めていかねばならないということで、若者が進んで着業をするような状況をぜひつくっていききたいということから、漁業では育てる漁業、栽培漁業。農業では、北海道や東京で戦えるような産品を作るということで農業振興ビジョンを今作っているところでもあります。

もう1つは、せたな町は今年3月2050年の二酸化炭素排出実質ゼロ、いわゆるゼロカーボンシティを目指すことを表明し、全国で613番目の地方公共団体として認められました。ご承知のように、せたな町には、平成16年4月に運転開始しました日本初の洋上風車であり、風見鳥が今も元気に回っております。風見鳥が呼び水となり、現在6万2000キロワットの風力発電所が稼働しておりますし、これからも新たな陸上風力発電事業の計画が進んでいるところでございます。相当なポテンシャルを有している風力ですが、檜山沖の洋上風力発電事業についても、管内、関係町と一丸となって、取り組んでまいりたいと考えているところでございます。この風力ですが、これを進めるためには、やはりしっかりと地域住民にメリットを示すということから、私の考えとしては発電量に応じた収入といひますか、そういったものを多くの森林環境税のような仕組みが必要だというふうにおひまして、これをぜひ国にも働きかけていききたいと思ひます。

この町が変わるために、この一次産業の振興とそれから風力発電、これは新たな産業と

いう事でしっかり将来のために育てていきたいと考えているところでございます。以上です。

【檜山振興局 榎局長】

どうもありがとうございます。高橋町長から特に一次産業と再エネ風力発電の関係についてお話をいただきました。何といたってもこの地域の主要産業は一次産業であろうかと思えます。漁業で申しますと、せたな町をはじめ、奥尻町、今年から江差町でも、トラウトサーモンの養殖事業が始まるということで、振興局としてもこうした新しい地域の取組を積極的に応援して、道南全体でサーモンあるいは新たな養殖事業、そういったものへの挑戦を進めていけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

また、風力発電の洋上・陸上を含めて、檜山地域大変盛り上がっております。先ほど振興局からの報告でも、プロジェクトの主要事業として掲げさせていただいておりますので、今後、特に洋上風力につきましては、国における有望地域、促進地域、そういった段階を見据えて地域を挙げて取り組んでまいりたいと思いますので、どうかよろしく願いいたします。

続きまして、各団体の皆様からのご発言をいただけたらと思います。このテーマは子どもたちの未来ということでございますが、それぞれの団体の皆さんの取組、それぞれの業種と職種等ございますので、そういったものを踏まえてご自由にご発言をいただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。まず最初に、新函館農業協同組合 横道組合長様よろしく願いいたします。

【新函館農業協同組合 横道代表理事組合長】

各町の取組を聞かせていただいて、私もこういう場に初めて出席し、このテーマについていろんな意見を聞いたわけでございますけれども、それぞれの町の取組は大変勉強になりました。改めてこの取組を継続して発展させていただきたいと思っているところであります。

農協の立場としては、子どもたちの未来というテーマでありますけれども、後継者育成ということで、今正組合員戸数が大体1,800戸ぐらいありますけれども、青年部の部員が220名くらいしかいないわけでございます。この中で今大体300人ぐらいの後継者が就農したり、また就農を予定しているわけでありまして、これについては、農協の中期計画を立てるにあたってそれぞれアンケートを取りまして、集計して、その中でいろんな意見をいただきながら、何を農協に求めているかということ意見を集約し、中期計画を組んでいるわけでございます。この中で一番若い農業者の意見としては、一番農協に求めることは農業の所得を増やして欲しいということで、これが80%近くの方でございますけれども、いずれにしても産業としてしっかりと持続して、新たな子どもたちに繋がせていくということを考えますと、儲かる農業ということでこの実現のために、中期計画は3年でありまして、計画を見ながらこれに対応しているところであります。

またもう1つ、小学校・中学校ですけれども、食育の一環としてそれぞれ市町の協力をいただきながら、水田では田植えから収穫、それを食べるということで、そういう食育教育も多くなっているわけでございます。今後もこういう要請があれば、農協としてもしっかり取り組んで、食育教育の方にしっかりと力を注いでいきたいなと思いますのでよろしくお願い致します。

いずれにしてもこの後継者問題も含めて、それぞれ第三者継承も含めて、新規就農者の子どもを合わせて、それぞれ市町の協議会を持って、取り組んでおりますけれども、改めてこの件につきまして、共にいろんな工夫をいただきながら、農業後継者をしっかり確保

していきたいと思っておりますので、改めてお願いしまして、私からの現時点での意見とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【檜山振興局 榎局長】

どうもありがとうございます。農業の後継者問題は私どもも深刻な問題と受けとめております。全道的に就業者人口が減少しておりますけれども、檜山地域は全道でも最も農業就業人口が減少している地域の1つでございます。非常に危機感を持っておりまして、私どもも基盤整備ももとより、農業の高付加価値化また生産性の向上など、各町また組合の皆様方とも連携しながら、重点的に取り組んでまいりたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

次に、檜山管内商工会連合会 赤石監事様、よろしくお願いいたします。

【檜山管内商工会連合会 赤石監事】

商工会の立場からお話をさせていただきたいと思っております。これからの子どもたちが自分の未来に明るい希望を持てるための目標の1つに、地元に残って、地元で活躍し、地元を誇りを持って生活できることだと思います。そのためには就労する企業が地元にあることが大切と考えております。それは活気あるまちづくりにも繋がると思います。

そのために商工会といたしましては、今ある事業所が存続していけることが重要であるとと考えております。

現在、経営者の高齢化や、コロナ禍の影響などで、廃業の増加が危惧されており、中小企業庁では、中小規模企業の事業承継を後押しするために様々な支援策を講じているところであります。

北海道商工会連合会では昨年度、全道の商工会に対して、事業承継の支援の状況調査を行いました。その中で、道内の商工会数に占める60歳代の経営者は27%。70歳以上の経営者は26.5%と、合わせますと60歳以上の高齢者の経営者の企業は商工会全体の半分以上を占めております。また、後継者のいない企業の割合は、全道の経営者で60歳代ですと55%。檜山管内では63.1%。経営者が70歳以上になりますと、全道では55.6%で、檜山管内では64.6%と、全道では5割以上、檜山管内では6割以上に当たるため、事業承継は早期に着手すべき課題となっております。

事業所の存続は子どもたちが転出せずに地元に残って仕事につける。また、学業などで転出したとしても、地元に戻って経済活動を続けていくことに繋がります。後継者が不在のために存続が望まれる企業が閉じられることを防ぐためにも、従業員承継や第三者承継を含めた事業承継支援を推進していく必要があります。商工会は経営発達支援計画伴走型支援と、様々な個別支援を現在させていただいておりますが、企業が明るい希望を持って経営できるよう努めております。今後も企業へのきめ細かな支援を続けていかななくてはならないと考えているところでございます。以上でございます。ありがとうございました。

【檜山振興局 榎局長】

どうもありがとうございました。後継者問題、またそれに伴う事業承継の問題、ご意見を伺いました。特に子どもたちの地元への就業の部分、人手不足でかなり求人倍率も高くなっている状況の中で、地元に残る若者がなかなかいないと、そういったジレンマも抱えているところだと思います。そういった部分も踏まえまして、振興局あるいは教育局、そういったところで、卒業生徒と地元企業とのマッチングにも今後力を入れていきたいと思っておりますし、先ほどお話のありました事業承継、これも全道的な問題として、道の方でも、各地域の商工団体の皆様と連携しながら取組を進めておりますので、引き続きの連

携、ご協力よろしくお願ひいたします。

続きまして、檜山建設協会 小林会長様、よろしくお願ひいたします。

【檜山建設協会 小林会長】

建設業と今日のテーマとリンクするような話になると思いますけれど、少し発言させていただきます。令和2年国勢調査によりますと、檜山就業者数の統計の中で、総数1万6462人のうち、農業、林業、そして医療、福祉、その次に、建設業が1991人、約13%の数字について考えますと、今日の資料のプロジェクトの中で、高規格道路網等の整備の中で調査中と表示してあります路線が一方でも前進し、実現になれば、今日のテーマに最もフィットし最も重要なプロジェクトになると思います。

【檜山振興局 榎局長】

音声トラブルのため、道南地方木材協会へ（復旧後、発言）

【道南地方木材協会 春山専務理事】

道南地方木材協会の春山と申します。本日は西根会長の代理で出席させていただいております。私の方からは、森林・林業についてお話しさせていただきたいと思ひます。

檜山管内は、道内でも土地面積に対して先ほど最初説明ありましたように、森林率が82%と、道内でも3番目に高い地域ということで、特にヒバとかスギ・ブナと道南にしかない樹種が多いということがございます。森林率が高いということで、居住地と森林の距離がすごく近いこと、それで生活上も身近なものになっているというのが当たり前になっているのではないかなと思ひます。そんな中でなかなかの子どもたちが、森林に親しむ機会が少なくなっていると考えております。森林に興味を持つということも大変学習の機会が必要かなと思ひております。この暑い時期ですけれども、そういう中で森林の中で涼しい思いをすれば、森林の働きとか、どういうものがあるのか関心を持ってもらえるのではないかなと思ひております。また、なかなか森林の中で遊ぶというようなことができていないというのもありますし、そういった面で、子どものこれからの森に関する知識ということで、木育等の推進をお願ひしたいと思ひます。

もう一つが、林業の担い手の問題でございます。いろんなところで出ておりますけれども、今年の春、北の森づくり専門学院の就職先を見ますと、森林率の高い地域には残念ながらゼロということで、檜山管内でも就職がなかったということがございます。やはり、若い人たちにとってみれば生活環境や就職先の就業内容とか、そういうところに重きを置いているという話も聞いておりますので、今後林業に従事する人の環境を改善することで、担い手の育成にも今後力を入れていただければと思ひております。

以上でございます。

【檜山振興局 榎局長】

ありがとうございます。森林、木材につきましては言わずもがなでございますが、ゼロカーボンの中でも二酸化炭素の吸収減ということで、これまで以上に重要な政策となってきたところでございます。そうした意味でも木育も含めた、ゼロカーボンの中での子どもたちへの環境教育、そういったものに振興局としても注力してまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。

続きまして、檜山地区町社協連絡協議会 村上事務局長様よろしくお願ひいたします。

【檜山地区町社協連絡協議会 村上事務局長】

まずは子どもたちの未来ということですので、子どもたちがチャレンジする勇気あるいはチャレンジをできる環境が道南の中であって欲しいと願っています。

福祉分野から言うと、プロジェクトにもありましたけれども、暮らし、安心、特に安心の部分です。社会福祉の中では、今、地域共生社会を目指そうということで進んでいます。各町にあります社会福祉協議会、それから役場にありますが保健福祉課などで進めています。その中で子どもたちはボランティアという形で、いろんなところで自分たちの力を小学生、中学生、高校生、地域の中で出してくれています。

そういうことから、各役場の理事者の方が、各町の福祉協議会に少してこ入れをして欲しいと願っています。なぜならば、社会福祉協議会は、少し消極的で、弱腰のところがあります。

なぜかという、自主財源がなかなかつけれない、ということと、やはりいろいろ人件費、事業費、運営費などを各町の理事者に考慮していただいているところもあります。そう言いながらも、最近では重層的支援などいろいろ大きな課題が出ています。そういう意味で、子どもたちへ大人が動いている姿、そして、子どもたちが、町、あるいは地域の中で自分たちの力をボランティアという形で発揮できているところを、子どもたちにも自覚してもらい、あるいは周りのみんなですべてを育てていくところを願っています。

今、民生委員、社協、町内会、福祉課などいろいろと情報共有をして進めなきゃいけないところがあります。ヤングケアラーの問題もごく最近出てきました。一つ一つにピントを絞るのではなくて、広い目で見たいというところで、社協へのバックアップをお願いしたいなと思っています。そういう意味で、みんなが関わる中で安心できる環境を作っていくところを願っています。

よろしくお願ひします。以上です。

【檜山振興局 榎局長】

はい、どうもありがとうございます。社協さんの地域の住民の皆さんへの暮らしを支える機能、大変重要なものだとして認識しております。今後、先ほどご要望ありました。各町からの支援、てこ入れ、そういったものについても私どもの方からも各町と社協さんとの関わり方についていろいろご相談をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

それではすいません。先ほど、途中で切れてしまいました。檜山建設協会小林会長大変申し訳ございません。よろしくお願ひいたします。

【檜山建設協会 小林会長】

いずれにしても子どもたちが道南一円をより短い時間でアクセスできる環境を作ることには非常に大切なことだと痛感しております。特に子どもたちの小トリップ、教育、スポーツ振興、そして医療に大いに寄与すると思ひます。また、加えて現実的な話ですが、このプロジェクトが10年、20年のスパンだとすれば、建設就業者は、それに関与できる環境となります。それが定住化の促進に繋がると信じております。建設業者の我田引水の考え方だと思われるかもしれませんが、現実的には、建設就業者は大きなプロジェクトへと移動労働をする傾向があります。もうすでにそれは始まっています、札幌への北海道新幹線工事、そして近く予想できる札幌冬季オリンピックへと繋がると思ひます。また、いわゆる出稼ぎ労働者の動向も同時にキャッチすることが、定住化の促進へと十分考えられると思ひます。

一方、我が協会の持続的活動といたしましては、各町の多岐に渡るイベント等への参画

団体として活動しております。また、各会員の地域のボランティア活動も大変盛んになっていると思っております。檜山地域に根差した建設業を引き続き指針として活動していくつもりでございます。また、本日のテーマに微力ながら参画団体として活動する気持ちであります。ありがとうございます。

【檜山振興局 榎局長】

どうもありがとうございました。道路整備の話など今後の地域に必要な基盤整備の話、また、後継者の話、種々いただきましてありがとうございます。

道路整備につきましては、我々も昨今の災害が多発しているこの状況において、避難路としても、また現下のコロナ禍の中で、例えば患者の搬入そういったものにしても、非常にますます重要な社会インフラになってくると思っております。道道はもとよりですけれども、国道や高規格道路も含めた地域の道路網の整備につきましては、私どもは各町また団体の皆様ともしっかり議論しながら、国に対しても必要な要請・提案をしてまいりたいと思いますので、岡下部長引き続きよろしくお願いいたします。

【函館開発建設部 岡下部長】

函館開建の岡下でございます。私どもが所管しております道路、河川、港湾、農業等の事業がございますが、地域の皆さんともしっかりご相談させていただきながら取り組んで参りますので引き続きご支援をお願いしたいと思います。

全体の話述べさせていただきますと、一通り各首長さんのお話と関係する団体の皆様のお話を聞いていた中で、やはり人口減少、少子高齢化が進む地域、全国の中でも北海道は10年早いと言われている中で、さらに北海道の中でも一番進行が早い、ある意味トップランナーにならざるを得ないような部分があって、非常に皆さんいろんなところでご苦労されているというところを伺い知ることができました。そういった中ではある意味ここで取り組んでいることが他の地域への解決策に繋がったり、大きなヒントになったりするのかなと思ながら皆様のお話を聞いておりました。子育て環境の充実ですとか、あと学校教育も頑張ってもらっちゃるところですが、やはり人づくり、人材づくりが非常に重要なところだと思いますし、将来、地域を担う方を輩出していただくのは非常に大事なことと思しました。関連する話として、昨年5月だったと思うのですが、開発局と北海道教育庁さんと連携協定を結んでおまして、そういった人づくり、人材づくりのお手伝いをさせていただくということで、我々出先の開発建設部も教育局さんと手を携えてご協力させていただきながら、できる限りのお手伝いをしていきたいと考えているところでございます。この檜山の地域は農林水産業が盛んな地域ですが、特に農業と漁業になると思いますが、私どものインフラ整備を通じてしっかり将来性ある、生産性が上がる産業となるよう下支えをしていかなければならないと考えております。

建設業は管内では3番目に就労者が多いというお話でしたが、当然私どもの事業のインフラ整備であったり、維持管理を行っていく上でいなくてはならない存在、大変重要なパートナーということになります。当然、日々インフラが使われており、どんな時にも皆さんが安心して使えるようしっかりした維持管理もしていかなければならないですし、いざ今日みたいな雨が、これぐらいで済めばいいのですけども大雨の時ですとか、冬の暴風雪の時とかもしっかり対応しなければならぬという意味でも、建設業も若い人がコンスタントに新規就労する、持続可能性がある業界にしないといけないと私どもも考えているということです。

そして、やはり何人かの首長さんからもお話ございましたが、地域のひとつの明るい材料といいますか、産業になる1つとして再生可能エネルギー、風力発電のお話もございま

した。間違いなく、全国で見ても北海道の日本海側、特に檜山地域については非常にポテンシャルを持っている地域だということが皆さんご認識されていると思いますし、再生可能エネルギーという風力発電を通じて、いかに地域の発展といいますか、地域の存続にも繋げていくような取組を考えていかなければならないのかなと思いました。

あともう1つ水産業ではサーモン養殖の話もありました。なかなか水産業も厳しい状況が続いていると思いますが、こういったサーモン養殖も安定した産業として育ててくれれば、また若い人たちにとってもすごく魅力のある仕事の一つにもなり得るのかなと思いつつながら私も聞いておったところでございます。

取り止めのない話をさせていただきましたが、引き続き私どもも総合開発計画に基づいていろいろと皆様とご相談させていただきながら、地域の発展のお手伝いをさせていただきたいと思いますので、ぜひともよろしく願いいたします。私から以上でございます。

【檜山振興局 榎局長】

岡下部長から大変心強い総括をいただきました。ありがとうございます。各町また各団体の皆様から大きなお話また厳しいご意見、課題も色々いただいたところでございます。しっかり私どもも受けとめて、また、ただどうしても函館開建さんはじめ、国の機関の支援も必要な取組もございますので、今後とも連携を深めさせていただいて、この地域の課題解決また地域振興に向けて取組を進めてまいりたいと思います。

本来であれば意見交換ということで、皆様から一通りいただいた意見をもとに、もう一段、議論を深めていきたいところなのですが、お時間が参りましたので、この辺でちょっと議論を切らせていただいて、今日いただいたご意見をしっかりメモにまとめまして、皆さんにフィードバックをさせていただいて、今後の地域づくりに役立てていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上をもちまして、令和4年度檜山地域づくり連携会議を終了させていただきます。リモート会議で不手際な点もございました。大変申し訳ございませんでした。本日はどうもありがとうございました。

令和4年度 檜山地域づくり連携会議 名簿

日時：令和4年8月3日(水)14:00~15:40
 場所：WEB開催(DOWKAI)

【構成員】

職 名	氏 名	備 考
江 差 町 長	照 井 誉之介	
上ノ国町副町長	疋 田 英 夫	代理出席
厚 沢 部 町 長	渋 田 正 己	
乙 部 町 長	寺 島 努	
奥 尻 町 長	新 村 卓 実	
今 金 町 長	外 崎 秀 人	
せ た な 町 長	高 橋 貞 光	
北海道開発局 函館開発建設部長	岡 下 淳	
北海道檜山振興局長	榎 信 彦	

【参画団体】

団 体 名	職・氏名	備 考
新函館農業協同組合	代表理事 組合長 横 道 重 人	
檜山管内商工会連合会	監 事 赤 石 智 恵 美	代理出席
檜 山 建 設 協 会	会 長 小 林 誠	
道南地方木材協会	専務理事 春 山 邦 明	代理出席
檜山地区町社協会 連絡協議会	事務局長 村 上 勉	代理出席